企画セッション

◆ AI for Science 時代に求められる研究、そして研究支援のあり方 ◆

【概　要】

AI for Science は、「将来の話」ではない。研究者の 78.7%が AI ツールを日常的に利用し、そのうち 78.9%が「ほぼ毎日」または「週に数回」使う。用途も翻訳・校正から、先行研究・関連文献の検索（71.0%）、論文・資料の要約（62.5%）へと研究ワークフロー全体に広がり、93.5%が「AI 活用は研究者の競争力に影響する」と答える一方、91.1%がハルシネーションを懸念している（※）。研究の現場では、期待とリスクが同時に、かつ急速に厚みを増している。

こうした変化は、研究者自身の働き方だけでなく、研究を支える URA・産学連携コーディネーターなど研究支援の実務にも直接及んでいる。科研費をはじめとする競争的資金の申請支援、研究動向の把握、知財・契約関連業務など、研究支援の現場でも AI をどう取り入れ、何を任せ、何を任せてはいけないのかという判断が日々求められている。

本セッションの前半では最初に AI 研究の最前線、とりわけ AI for Science の動向に通じた立場から、AI が研究のプロセスと成果そのものをどう変えつつあるのかを具体に即して語っていただく。次に科研費採択課題約 20 万件を AI で解析・可視化する「科研費学術地図（KAKEN-ATLAS）」の開発など、研究支援の現場で自ら AI を実践してきた立場から、支援業務における AI 活用の具体像と留意点を共有いただく。さらに研究者 693 名規模の利用実態調査を提示し、印象論ではなく数値で現在地を共有する。研究・支援実務・産業という三つの異なる現場のあいだにあるギャップを可視化する。

後半のディスカッションでは、そのギャップを埋めるために何が必要かを扱う。研究の速度と規模が変わるとき、成果の信頼性は誰がどう担保するのか。AI が関与して生まれた成果の帰属・保護・活用をどう設計し、誰がその体制を支えるのか。知的財産マネジメントの視点を持つ本学会だからこそ踏み込める論点として提起したい。研究支援の最前線に立つ参加者にとっても、自らの実務に引きつけて持ち帰っていただける議論としたい。

※ 数値の出典：カクタス・コミュニケーションズ株式会社 エディテージ「研究者の AI 利用実態調査 2026」（調査期間 2026 年 5 月 14 日～6 月 21 日、回答数 693 件）
https://www.editage.jp/blog/ai-use-by-researchers260804/

企画セッション

◆ AI for Science 時代に求められる研究、そして研究支援のあり方◆

【講演者】

今井 翔太
北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 教授

1994 年石川県生まれ。2024 年 東京大学大学院 工学系研究科 技術経営戦略学専攻 博士課程修了、博士（工学）。同年 7 月 株式会社 GenesisAI を創業し、代表取締役社長/CEO を務める。2025 年 北陸先端科学技術大学院大学 客員教授を経て、2026 年より同大学 先端科学技術研究科 教授。専門は強化学習・マルチエージェント学習、大規模言語モデル、AI for Science。国家戦略特区 AI 戦略アドバイザー、文部科学省 科学技術・学術政策研究所（NISTEP）定点調査委員などを務める。著書に『生成 AI で世界はこう変わる』（SB クリエイティブ、2024 年）。

荻 多加之
福島大学 地域未来デザインセンター リサーチ・アドミニストレーター（URA）
北陸先端科学技術大学院大学 総合戦略企画室 特任准教授（URA）

筑波大学にて博士（神経科学）を取得。理化学研究所で高次視覚野の研究に従事した後、2019 年より福島大学 URA として研究支援全般を担う。AI for Research Administration の研究にも取り組む。2025 年 12 月よりクロスアポイントメント制度により JAIST 特任准教授を兼務し、研究 IR や研究戦略策定に従事。

湯浅 誠
カクタス・コミュニケーションズ株式会社 代表取締役

大学卒業後に渡英。その後、Cactus Communications 本社（インド）に就業。日本法人設立を担当し、現在カクタス・コミュニケーションズ（株）代表取締役を務める。日本のアカデミアの国際化支援に長く携わっており、現在はカクタス・グループの日本・韓国・中国・アメリカ・イギリス・インド・シンガポールの全拠点におけるグローバル・ブランド戦略を統括。

【モデレーター】

原田 隆
東京科学大学アントレプレナーシップ教育機構 特任教授

専門は知財マネジメント。産業技術総合研究所、筑波大学、福井大学を経て、2014 年 7 月、東京工業大学（現：東京科学大学）に特任助教として着任。2017 年 7 月より同大学 URA。主に情報工学、医療情報領域を担当し、共同研究講座やコンソーシアム、文科省・JST 事業のマネジメントに従事。2025 年 11 月より現職。